

第3回亀岡市における文化施設のあり方を考える懇話会 議事要旨録

日 時：令和3年10月6日（水） 午前9時30分～11時45分

場 所：亀岡市役所3階 302・303会議室

出席者：今里佳奈子座長・川勝啓史副座長・大野照文委員・大矢寛恵委員・
小川顕正委員・加藤美智恵委員・河原林茂美委員・栗山初美委員・
野原通夫委員・藤本邦雄委員・松井利夫委員・山本隆志委員

欠席者：なし

関係職員：文化国際課 小塩課長・服部副課長兼係長

財産管理課 野々村課長

歴史文化財課 岩崎課長・八木係長

事務局：政策企画部 浦部長

企画調整課 高木課長・太田係長・關本主任・美馬主査

傍聴者：4名

- 議 題：1 開会
2 これまでの懇話会での委員意見のふりかえり
3 提言書作成に向けた意見交換
4 その他
5 閉会

1 開会

本懇話会は公開とする。

A 委員

亀岡市文化資料館及び友の会の活動の理解のために、『文化資料館友の会会報』を2部配布させていただく。

2 これまでの懇話会での委員意見のふりかえり

資料に基づき説明（事務局／關本）

座長

資料の「これまでの懇話会での委員意見のふりかえり」の内容を、提言書に反映させ

る。参考資料として配布した第1回及び第2回懇話会の議事要旨録を参考にしながら、「これまでの懇話会での委員意見のふりかえり」の内容がこれで良いか、付け加えるべき言葉がないか、修正したいところがないか、御意見をいただきたい。

また、追加資料の「提言書構成イメージ」について、前回までの議論の中で「まちづくりの視点から考えるべき」「長期的に考えていくべき」「タンスの肥やし」など、文化の視点から重要な御意見があったが、そういった意見が「これまでの懇話会での委員意見のふりかえり」には入っていない。後半に意見交換の時間を取っているので、その際には、特に「文化の視点からまちづくりを考える」ことについて、委員の皆様から御意見を伺いたい。

前半は「現状」「今後の方向性」「文化資料館のあり方について」「文化ホールのあり方について」の部分について、御意見をいただきたい。

B 委員

これまでに言い足りなかった部分がある。前回の懇話会で、亀岡は他の地方都市と同じようになってしまうと発言した。きちんとまちづくりを考えないと、亀岡の魅力が発揮できなくなり、どんどん衰退する。国家100年の大計を考えると、気候変動と人口減少は国家存亡の危機に関わる問題である。日本は人口減少について危機感を持って考えてないといけない。人口減少は既に起きており、ここ2・3年は亀岡市に大きな被害は無かったが、気候変動は毎年深刻になっている。そんな中で、これから先の亀岡のまちづくりをどう考えるか、視点をしっかり持たないといけない。前回の懇話会で申し上げたことは、理想論や夢物語ではない。

そんな中で、具体的にはお父さん、お母さんがこの町で子どもたちを育てることに魅力や誇りを感じられないと、若い人にとって引っ越しはハードルの高いものではないので、便利な町に出て行ってしまふ。高齢者も、この町で生活がしづらいと出ていってしまふ、人口減少はますます進んでしまふ。この町は衰退する一方になるだろう。

行政に頼ってもうまくいかない。市民が主体となり、文化活動や高齢者の見守り活動、子育てに関することについて、皆で力を合わせて取り組み、市外の人が暮らしてみたいと思える町にならなければならない。文化資料館や文化ホールの整備のことだけを考えるのではなく、この町でこれから先、次の世代やもう一つ次の世代にかけて、私たちはこういう町であってほしいとの思いを残していかないといけない。

座長

施設をどうするかということに矮小化せず、全体やこれからの亀岡のまちづくりとの視点から、将来的に魅力のあるまちづくりのことを考えないといけないとの意見であった。提言書に入れるとしたらどこか。

B委員

「はじめに」と「今後の方向性」の両方である。

C委員

B委員の意見は、亀岡市総合計画で議論することであり、今の意見を提言に出すことは場違いだと思う。この場では個別の問題を討議すべき。

D委員

平成28年に、行政で新資料館構想をまとめている。構想は、個別がどう全体と繋がっているかが重要である。「はじめに」というところで「文化の視点からまちづくりを考える」ということだが、行政にまちづくりの視点から文化をどう考えているか、お聞きしたい。B委員の発言は一理あり、日本中が大変な状況で、なぜ文化のことをしないといけないのか、皆さんの腹に据えておかないといけない。

例えば、幕末に各藩は非常に疲弊したが、たくさんの藩校、学校を作られた。つまり、状況が危機になった時こそ、人材を育てて次の世代を担うと考えられ、危機意識が共有されたことで明治維新が起こった。

今の日本も大変苦しい状況で、どう乗り越えるか。例えば、隠岐の島の海士町は、Iターン政策を目指し、その中に文化を位置付けて、海士町の歴史の編さんを数年かけてやった。海士町の学校は有名で、Iターンは日本で一番となり、注目される場所になった。市民の皆さんのためにすることは、市民の皆さんに協力をしてもらわないといけない。協力してもらうにあたり、自分が住んでいるところは、良い所であると分からないとどうにもならない。そういう意味では、文化ホールと文化資料館を作ってもらわないといけない。大きい建物を作ることも大事だが、何十年間の計画の中で、確実に作れるようなことを考えていただきたい。もう一度言うが、行政の方でまちづくりの視点から文化のことを捉えたものを入れてほしい。

通常、ものを作ってほしいという提言書は、自分たちが好きだから作ってほしい提言となるが、亀岡市文化資料館友の会からの提言書は亀岡市にとって必要なパーツとして、どのようなものが必要かということをもとに作られたので、亀岡市の文化政策の役に立つ。

亀岡市には立派な資産があること認識し、それにふさわしい行政の役割を果たしていただきたい。

事務局

第5次亀岡市総合計画の中で、5つの重点テーマを掲げており、その一つに「スポーツ、歴史・文化、観光の魅力で産業が輝くまちへ」ということで、文化も重点テーマに掲げている。霧の芸術祭で、様々な地元の芸術家たちと亀岡市と一緒に芸術を広げる活動もしている。亀岡市としても、文化はまちづくりにおいても重要であると考えている。

提言書の中に、亀岡市としてのまちづくりの視点を入れるべきとの御意見をいただいたが、あくまで懇話会から亀岡市にいただく提言である。

E 委員

2016年にまとめられた新資料館構想は、5年前のもの。この5年間で亀岡の人口は約3千人減っており、状況が非常に変わっている。5年前に新型コロナウイルスの状況を誰が想像していたか。5年の月日は、この時代では非常に長い時間だと思う。文化資料館を作りたい人にとっては、5年前の構想がある意味錦の御旗になるかもしれないが、例えば国が5年前に出た構想に従って何か政策をするとなると、怒り狂う人がいると思う。新型コロナウイルスの対応も5年前の知識で対応したら、間違った対応になる。

そういうことを考えると、5年前の構想にどこまで縛られるか、よく考えた方がいい。

5年前に5年後の人口が、3千人減っていると誰が想像していたか。恐らくこれから加速度的に減っていき、次の5年は4千人かもしれない。そういうことは、提言書に踏まえておかないといけない。

文化活動と施設の関係だが、施設がないと文化活動や文化の振興はできないのか。世の中に無形文化財は存在し、施設がなくても文化として息づいているものはたくさんある。「施設を作らない」イコール「文化振興をしていない」とはならない。

仮に50億円の施設を作るとすると、今、亀岡市にいる住民だけで負担すると、一人5万5千円払うことになる。実際は、そういう財政的なスキームを使うことはなく借金をするが、仮に借金をしないなら、5万5千円払う。施設がなくても文化振興する方法が多くある中で、そういう観点を含めて考えないといけない。5万円払うなら、京都市までの電車のフリーパスを配布した方が、文化を知る事ができるかもしれない。

D 委員

するどい視点である。5年後に4千人減り、どんどん減っていく予測は、現在のまま放っておけばそうなる。その判断に基づいて行政、議会や市長が施策を打つと思う。もし、それで良ければそのまま放っておけばいい。

私は、博物館を作り維持もしたことがあるが大変であった。施設の維持費の件は、よく考え合理的にやっていかないといけない。

確かに京都や、ヨーロッパの博物館に行けばいい。しかし、アイデンティティ、地域の誇りを心の中に持ってほしい。誇りでなくても、好き嫌いを持ってほしい。そのためには地域の理解が必要で、理解をするために必要なものは資料である。5年前に構想が出たにも関わらず、できなかったのは行政の責任であって、構想を作った人の責任ではない。大事なことは全て京都に行けばよく、医療が大事なら東京へ行けばいい所がたくさんある。亀岡にいる意味は何かについて、考えないといけない。

例えば、京都大学の隣に吉田神社があり、1,200年間祭りをしている。祭りは何

の役にも立たないが、地域の町衆が集まって文化の維持をしている。京都大学は創立して125年で息切れしており、大学の生き残りの話をしている。吉田神社の周辺の住民たちは、地域社会が維持されていることに自信を持っている。亀岡の自信は何かという観点がないと、亀岡市は無くなって京都市に併合される可能性もある。自分たちが住んでいる地域を発展させるパーツとして、行政から見た文化のことを聞きたい。ここに住んでいる意味から出発して、議論を進めてほしい。

E 委員

「働く世代や人口が減っているから、施設を作って」ということを何回か聞いた。私も子育て世代だが、子育て世代が住む場所を選ぶ時に、そこに文化資料館があるかどうかは関係ない。そういう理屈で行くと、神奈川県川崎市の人口がそんなに増えるわけがない。人口減少に歯止めをかけるための政策としては、経済的にも理屈が通らないのではないか。そういう視点で提言書を書いてしまうと、ロジカルでないと思う。それで人口減少に歯止めがかかるなら、日本全国の自治体で歯止めがかかっている。観光客は来るかもしれないが、そこに住むかどうかは別の話である。

A 委員

25年前にこの町に来て、市民大学で上田正昭先生から歴史を学ぶことの大切さを学び、文化資料館に通うようになって18年になる。文化資料館のサークルで、江戸時代の古文書や『新修亀岡市史』を読み続けるうちに、昔も私達と同じような人々が同じように暮らしていたと感じ、自分も歴史の流れの中にいることを自覚するようになり、未来の人々に恥ずかしくない生き方をしなければと思うようになった。

友の会の会員は、皆、地域の歴史を学び、ふるさとガイドの会やお祭りなど、地域のボランティアに積極的に関わっている。本日配布した『亀岡市文化資料館 友の会 会報』を読んでいただくと、様々なところで奉仕活動をしていることが分かる。府立丹後資料館や2019年の国際博物館会議でも活動した。様々なところで、文化資料館で学んだことが活かされており、そういう場所も必要だと思う。5年前に作成した新資料館構想だが、根本的な考えは変わらない。

座長

次第3の「提言作成に向けた意見交換」のスタンスの話となっている。ここでは「これまでの懇話会での委員意見のふりかえり」に書いてある内容についての、意見交換である。今のままで、「これまでの懇話会での委員意見のふりかえり」がそのまま文章になって出ていくこととなる。「これまでの懇話会での委員意見のふりかえり」の文章がこのままでいいか、修正した方がいいか、また、具体的にこういう言葉を加えてほしいといった意見をいただきたい。

A 委員

文化資料館の「現状」で、「老朽化が進むとともに」を「老朽化が激しく進むとともに」に、「様々な面で使用上の制約が出てきている」を「様々な面で博物館機能の制約が出てきている」にしてほしい。

それと、第4次亀岡市総合計画で、新資料館が建てられる予定だったということも入れた方がいいのではないか。新資料館構想が完成し、本当は後期5年間で基本計画が作られるはずだったが、スタジアムの問題などでできなかった。

C 委員

D委員の言う通り、文化資料館は方向付けができています。あとはハード面をどうするか検討し、外面をどう付けていくかです。できれば遊休施設を有効活用する中で、改修などをして歴史ある様々なものを保存し、展示し、見学するというようなものがよい。こういう時勢なので、できるだけ財政負担をかけないようにするべきです。文化活動をされている団体の、文化施設を今にでも整備してほしいという気持ちは分かります。

東京オリンピックでスケボアの若い選手が金メダルを取ったが、最初は空き工場の倉庫の中にとりあえずの練習台を作って、練習していた。それが広まり応援者が出てきて、商業ベースに乗せて道具を売る業者が別の場所で有料の練習場所を作った。

バイオリンやピアノは、最初から英才教育としてヨーロッパに留学をして、超一流の楽器を使用しないとトップにはなれない。今目指していることは、そういうことではなく、地道に最低限の音響設備と舞台を設置し、利用できるようにすることだと思う。

人口の問題で、兵庫県明石市の市長は有名。子育てがしやすく、若い人が明石市に移住し、人口が増えている。大分県豊後高田市は、山の中に学習塾を設置し、学校の先生や留学から帰ってきた人が、無償で学習塾の先生をしている。それが理由で、山の中でも住みたいという人が住んでおり、設備が全てではない。私は先祖代々、水害で水没するようなところに住んでいるが、亀岡に住んでいてよかったと思う。世界人気都市ランキングで京都はナンバー3に入るが、世界の観光都市である京都に30分で行ける場所、至近距離に住んでいることが誇りである。水害のリスクはあるが、私は亀岡が好きで住んでいることを申し上げたい。

座長

今の御意見は「これまでの懇話会での委員意見のふりかえり」の文章の、どこに当てはまるか。

C 委員

全体のことなので、内容については基本的にこれでいいと思う。

F 委員

亀岡に自分のアトリエがあり、15年間制作している。霧の芸術祭を担当している中で、亀岡の魅力が分かってきた。住んでみないと分からないこともあり、町の人たちと交流してみないと見えてこないことが多くある。亀岡祭が何かを知らず15年間住んでおり、祇園祭の小さいものだと思っていた。今、市役所の地下の「開かれたアトリエ」で、亀岡祭の展示が行われている。その展示の特徴は、100坪ほどの「開かれたアトリエ」で、外部のアーティストが祭りを見直した結果、その外部のアーティストたちの作品と祭りが一体化した展示となっている。それを見ただけで、祭りに行きたくなった。

外部の人たちと交流する中で、祭りの魅力をどういう形で掘り起こしていけばいいのか。その取組の一つが今、「開かれたアトリエ」でやっていることだと思う。

既に、町そのものが文化的な機能を持っており、町そのものが一つの文化資料館である。鉾の保管庫や、お囃子の練習場所が文化施設だと思う。祇園祭だとお囃子の練習音が祭りの1か月、2か月前から聞こえてくる。町に祭りが始まる気配が漂っている。亀岡祭の素晴らしいところは、文化を継承しつつ作っており、消費しているのではない。文化を作るところにお金を割くべきだと思う。文化は消費するためにあるのではなく、作るものという方向性を展開するべき。作る主体は、アーティストや専門職の人であるが、町衆が作っている事例もたくさんある。鞍馬の火祭りや、祇園祭にも参加したが、参加することで文化を作っていくことになる。そういう方向に結びつけなくてはいけない。

亀岡市全体が一つの大きな文化資料館であり、文化ホールでもある。文化を消費するのではなく、文化を作るという視点から、文化を創生や継承する人たちの活動に対してお金を出すことは賛成である。新たに施設を作ることは控えた方がいい。あるいは、すでにある施設を補修、拡充、活用し、これまで文化的に見向きもされてこなかった建物を文化の継承や創造のために活用していくことに、予算を付けるべきではないか。人口減少は何十年も続いていくことで、亀岡市の適正な人口は何人くらいなのか計算しないとけない。文化の視点から言うと、亀岡祭を維持するため、あるいは地域の様々な祭りを維持するためにはどれくらいの人口が必要で、どういう属性の人たちが必要か、移住者に対する呼びかけをしていかないといけない。サラリーマンのベッドタウンから脱却し、町衆で文化を作っていく、町に定住している人たちがこの町の文化を作っていくという視点を明確に出さないといけない。以上「今後の方向性について」の意見である。

座長

内容が次第の3に入っている。次第の2は、これまでの懇話会で出た意見のふりかえりにあたる。皆様のお手元にある「これまでの懇話会での委員意見のふりかえり」が、提言書の内容になっていく。提言書の方向性についての意見交換は後にし、先ほど加藤

委員からいただいたように、この文章の表現を変えてほしいなどの具体的な御意見をいただきたい。

G委員

「今後の方向性について」の最後のところに、実現化に向けたロードマップを作成するとあるが、長期的な視点は大事で、それが欲しい、あれが欲しいと言っても仕方ない。

施設を作れるかどうかは分からないが、作りたいと思うような人たちを育てていくことも大事ということ、「今後の方向性について」の部分に入れてほしい。自分の子どもが5年、10年、15年、20年後に自分の町にこの施設があって良かったと思ってほしい。日々の文化のふれあいやワークショップなど、自分が今やっていることを発表する場が、今の人たちにも大事だと思う。将来だけを見るのではなく、人が暮らし、いずれ何かができるという考え方の中で、人を育てていく文言を入れてほしい。

座長

「今後の方向性について」の中に、子どもたちが文化と触れ合え、豊かに育つ環境を作ることが必要との意見を入れるべきとのことであった。

H委員

G委員の意見に通じるが、「今後の方向性について」の一番下で「亀岡市の現在の財政状況を考慮すると、直ちに新たな文化施設の整備に着手することは難しいため」と記載されているが、新たに着手することが難しいと断定してしまうのは、どうかと思う。

「財政状況を考慮すると、京都府や近隣の自治体と協力して」とするべき。

I委員

H委員の意見に賛成である。「文化ホールのあり方について」の上から4つ目、座席数にこだわりたい。旧亀岡会館は776席あるので、800席にしてほしい。利用する立場からするとこれだけのお客様に入っただけとうれしい。400席から500席では物足りない。我々が演奏会を開催すると、600人から700人は入っていた。

J委員

H委員の意見に賛成である。文化施設のあり方を考える時に、一部の委員からは、施設の必要性に疑問を持っておられる発言もあった。文化資料館と文化ホールは、今すぐにでも市民のためには必要なものである。亀岡独自の文化や文化財を、守っていかねばならない使命を持っている。若い世代、次の世代の人にもそれを伝えていかねばならない。文化資料館や文化ホールは、施設を活用する中で人材を育成する。文化財を守っていくためには、高齢者だけで守っていくわけにはいかない。若い人にも多く参

加していただきたい。皆で亀岡祭の銚を保全していくことで、文化財の貴重さを認識しつつ、亀岡全体の宝であるという意識を持てる、発信のできる施設でなければならないと思う。文化施設の目標や目的を明示して、どのような施設にし、どのように運用するかを加えた方がいいのではないか。

C委員

懇話会の多くの委員は施設を作ってほしいとのことで集まっておられる。今の意見も分かるが、LINEアンケートのすう勢が民意であり、「ふわっとした民意」を大事にしないといけない。何名かの委員からの意見は各団体からの推進派の意見であり、民意ではない。「ふわっとした民意」では、財政状況を考え急いで作る必要はないとの意見が大勢である。それを提言書に生かさないと、アンケートの意味がない。興味がないということは注目されてないということ。その辺を加味して、表現をしないといけない。

A委員

今回のLINEアンケートは適切であったかどうかを考えている。8月末にゴミの出し方のことで、LINEアンケートがきた。ゴミのことは、亀岡市民皆が経験しているので、誰でも同じような条件で答えられる。文化施設に関するLINEアンケートは、第3弾の自由記述の32番に、「必要な資料がないなかでのアンケートは不適切だ」と書かれている人がいた。文化施設を一度でも利用した人と全く行っていない人では答え方が全く異なるので、「ふわっとした民意」にも到達していないのではないか。亀岡会館は壊されたから誰でも知っているが、文化資料館は機能しているので状況が分からないと思う。事務局からアンケートの確認のメールが来た時に、少し文言を入れたいと思ったが、LINEアンケートの制約があるとのことで「老朽化した」という言葉だけ入れていただいた。

E委員

文化ホールの人数を公平に書くとすると、400席から500席の次に「一方で演奏者側からすると800席はほしいとの意見があるのも事実である」と、両論併記をしてあげると配慮ができる。

LINEアンケートのところの表現は変える必要はないと思う。施設を知らないことが「ふわっとした民意」だと思うので、それを含めてそのままでいいと思う。残念であり、それがいい状態とは思わない。文化は大事にしていけないといけないし、歴史は好きだが、現状の施設を知らないことも民意である。

A委員

「施設を知らない」という市民が多いというのは、総合計画で「歴史・文化は亀岡市

にとって大事」といいながら、長年資料館の問題を放置してきた行政の怠慢と言えるのでは。

E 委員

B 委員が発言されたように行政に頼るのでなく、市民が主体となるべきである。全て行政のせいだと言うのはどうかと思う。そういう側面もないとは言わないが、1か0の話ではない。

D 委員

「文化資料館のあり方について」の1番目の「新たな文化施設については、新資料館構想を踏まえて、検討を進めてもらいたい」ということだが、新資料館構想が1行では一体何か分からない。もう少し具体的に書いていただきたい。「亀岡市の文化資料を大切に保存し、亀岡市の歴史や文化を理解できるための調査研究をするとともに、子どもたちの学習や市民の地域に対する誇りを持っていただくための活動をしている」「全国に亀岡の魅力を発信することによって、Iターンを呼び込むことにも資する」など、文化資料館とは何かを入れるべき。LINEアンケートと一緒に、文化資料館が何か分からずに、あり方と言われても市民の人は分からない。文化資料館の目的は何か。収集、保存、展示、学習支援と、そのための調査研究。それが結果として亀岡の魅力を再認識することになる。2行くらいで入れてほしい。文章は行政に任せたい。行政のまとめる能力を知りたい。それが入ったうえでどうするかは次の課題である。

座長

「新資料館構想を踏まえて」の中に、新資料館構想の内容を少し入れて、文化資料館の目的を分かるようにする。また、文化施設の目的を踏まえて、財政的な部分や整備費用について検討すべきとの意見があったので、何らかの文章を「今後の方向性」に入れてもいいと思う。

それ以外に、LINEアンケートの結果を踏まえるべきだとか、将来世代に過大な負担を残さないといった部分で、市民の皆様の御意見が反映されるのではないかと思う。

文化ホールの席数の件では、具体的に御意見をいただきありがたい。提言書は一つの提言でまとめない。幅広く御意見を募って、こういう意見があったというところを踏まえ公にする。

D 委員

「文化は一つの財産であり、先人が培ってきた亀岡の文化的資産を継承するとともに、将来世代に過大な負担を残さない」という形で書くべき。借金の話ばかりだと、住んでいる人も亀岡はもうだめだと思う。夢も何もありませんとなる。嘘でもいいので1つか

2つは、夢を入れておかないといけない。亀岡だけでなく日本や世界を見る視点を持ち、亀岡から有能な人材を世界に供給するくらいの観点で書くべき。僅かな記載でできると思う。

A 委員

「文化資料館のあり方について」の2番目で、資料保存用の収蔵庫は、整理整頓して保存ができるということは当たり前のことで、「今後収蔵品が増えることを考慮して」と記載するべき。亀岡は無住のお寺が増えており、仏像が一人でお留守番をしているような状況で、地域の人はいつ盗難に遭うか心配をしている。将来的に仏像を預かっていくことも起きてくる問題である。現在の収蔵庫の危機的状態についても提言に入れてほしい。

展示用の施設は広くなくていいは、乱暴な言い方だと思う。展示には常設展、特別展・企画展があり、常設展は常設で、特別展を開催していても常設展は観られる状態が理想。

今は特別展の時には常設展の展示品を片付けて、特別展を開催している状況だが、収蔵品は触れば触るほど傷むので、なるべく触らなくても済むように、常設展と特別展を分けて開催できるようにしてほしい。広くなくてもよいとの言葉は適切ではない。

D 委員

展示用の施設は適正なものという表現でどうか。

座長

このまま箇条書きでなく、文章化してまとめる。提言書の案は次回の懇話会で議論していただく。

3 提言書作成に向けた意見交換

座長

次第の3では特に、亀岡市の文化政策を考える上での視点や、施設の必要性について、また、全体を通しての御意見もいただきたい。

B 委員

施設は必要であると考え。人口減少社会の中でも、子どもたちが感性豊かに育ち、学びや体験をできる施設があり、そのような町で子育てをすることに魅力や誇りを感じる子育て世代の大人が多く住んでいることが、この町にとって大切である。一方で、高齢者が何歳になっても元気で、様々なところで文化やスポーツの活動をし、その高齢者

を応援する世代や子どもたちが高齢者と一緒に活動する町であってほしい。そのためには、拠点として活動でき、発表できる施設が必要。行政は、そういった施設を提供し、活動できるシステムを提供すべき。住民が主体となる活動があつて、それを行政が支えることが一番望ましい。施設がなくてもいいのではないかという意見を承知しながら、私は子どもたちや高齢者に関わる活動に携わっている経験の中で、このまま何もしないと将来この町や日本全体がだめになるという危機感から、そのような活動の拠点になる施設がこの町に要るだろうと思う。

F委員の「施設がなくても地域で様々な活動ができるのではないか」という見方もあると思うが、拠点となる基幹施設として、文化資料館や図書館のような機能も集約された総合的な施設があつた方がいいのではないか。具体的な場所はこれから先の検討だが、一つの案としてはガレリアのバラ園を文化資料館の場所に移設して、バラ園のところにそういった施設が建てられるのではないか。日常の活動は、既設の公民館、集会所、学校、お寺、神社、個人の音楽ホールといった民間施設も含めた地域で行われ、一方で市民の様々な文化活動の基幹施設となるような文化施設があつて、それと常に連携できればいいと思う。そのための基幹となる施設として、文化ホールを含めた文化施設が必要であると思う。亀岡市に新文化施設を要望する会は、そういった視点で市民の皆さんに訴えている。今の賛同者は1千人前後だが、もっと増えるように地道に活動する。文化施設の整備が具体化した時には、どういった資金集めをすればいいかということも考えていきたい。提言書の中に、そういった私たちの思いを取り入れてほしい。

C委員

去年12月に、亀岡運動公園の体育館で、小城製薬株式会社の記念事業として、大阪桐蔭高校の吹奏楽部が演奏された。指導者の方に、あの場所で良かったのかと聞くと「場所は選ばず与えられた場所で全力を尽くすことが我々の仕事です」ということを言われた。場所を選ばなくても一生懸命演奏する気持ちが大事で、それがブラスバンドの音に響くと指導者の先生は言われ、設備ありきではなかった。最低限の設備は必要だが、普段は体育館の壇上で練習している。そこで一生懸命練習する姿勢が大事で、それが生き方に繋がっていく。

H委員

舞台を観に行きたい側の意見としても、文化ホールは作ってほしい。人間は悲しい時や嬉しい時に音楽を聴いて、励まされ、頑張ろうという気持ちになると思う。また、お金を出して観ることに亀岡の人は慣れていない場合が多い。「良い文化を享受するためには対価を払うのが当たり前」という意識になってほしい。舞台を観る時のマナーについても、何回も観ることで観る側のマナーが上がっていくと思う。

発表する側の方からの意見としては、立派な建物でなくとも、最低限の施設で緞帳が

あり、音響がしっかりしていることが必要である。体育館で発表できないこともないが、反響板などの最低限の設備は必要である。

自分が学生の時に、亀岡市内の学校の体育館で、学校公演として演劇や音楽などの公演があり、劇団の『奇跡の人』の演劇と、狂言が公演されたことは、何十年間経過しても覚えている。一生観ることもないような演劇や音楽を子どもが体験して、何十年か先に何かのきっかけで花が開くことがあると信じている。文化ホールで本物の演劇や音楽を、子どもの時に観ることは人生ですごく大事であり、経験をさせてあげたい。本物を観ることを、子どもの頃から癖付けることが大事だと思う。そのためにも文化ホールが必要だと思う。

D 委員

行政が記録を残すアーカイブの保管条例は、亀岡市にあるのか。人間のすることは間違っていることがあるので、未来への参考にするためのアーカイブがいる。それと図書館、博物館の3点セットで、ようやく一つの自治体のベースができる。今の状況を見ると文化資料館が弱い。市としての体裁がまだできていない。発展途上なので、まだまだ伸びしろがある。博物館を作ることでようやく、どこに対しても恥ずかしくなくなる。

OECDは、子どもにしっかり勉強させないと、経済が回らないとの調査結果を発表している。日本の子どもには知識はあるが、応用力は全くなく、未来に対して何の夢もない。大人や社会が、子どもに素晴らしい未来があるということを信じられる世界を作っていない。あなたは偉いと、一人一人の子どもに伝えることが大事である。

また、自分の住んでいる世界が、歴史、自然、経済的に裕福であると気付かせ、その素晴らしい世界を楽しむ能力が自分にあるということを感じさせる。この2つが大事である。

学校教育は地域が中心だが、今は地域だけではだめで、様々な探究活動をする必要がある。三重県では、必ず地元の課題を子どもに探究させる。飯南高校の生徒は、空き家を貸せばIターンできるのではないかと考え、持ち主のところに行ったが「貸したいのはやまやまだが、私たちの力ではゴミの整理もできない」と言われた。そうすると、生徒がきれいにして空き家バンクに登録した。つまり、自分たちの地域をよくしたいという気持ちを持っていると、それができると感じさせる仕掛けが必要である。その仕掛けの一つが文化資料館で、そういう観点が重要である。文化資料館を作ることによって子どもたちが生き生きとし、しっかり働いて地域を潤わし日本全体を潤わせばいい。豊かな心を持てば、警察官の数は少なくても済む。その辺のバランスを考えたらうえて、博物館への投資額と見返りの額の計算を誰かしているのか。中長期的には投資に見合う見返りが来ると思う。

A 委員

三重県総合博物館に、文化資料館友の会で見学に行った。小さな乳児を連れてお母さんが来られるようなコーナーがあり、感心した。三重県総合博物館は、新博物館建築の始まる計画段階から県民に現状を詳しく発信されて出来上がった。

提言書に盛り込んでほしいことがある。亀岡市が生涯学習都市宣言を関西で一番に宣言したが、生涯学習都市については、最近はほとんど聞かなくなり、市民の皆さんはあまり認識がない。私が亀岡市に来た時は、生涯学習都市宣言をした直後だったので、その成り立ちについての話を聞いて感銘を受けた。争いのない世の中にしていくためには、「平和な世界の構築には人々が生涯をかけて学び続けることしかない」と、1960年代にユネスコの会議でポール・ラングランという方が提唱して世界に広がったとのこと。

この高邁な精神のもとに始まった生涯学習の、拠点となる文化施設という位置付けを提言書の中に盛り込んでほしい。

E 委員

文化振興をしなくてもいいとは申し上げていない。文化資料館友の会の会報を読むと面白いと思う。しかし、なぜ子どもが希望持つために、博物館が必要か理解できない。

博物館があると、子どもたちが希望を持てるわけではないと思う。子どもの成長にとって必要なものは多面的であり、博物館がないと一人前の都市でないという意見は失礼ではないか。博物館がない町で育った子どもでも、立派になった人はたくさんいる。文化は重要で不可欠だと思うが、教育や子どもの未来のためには博物館のような施設が不可欠であるということは、議論が飛躍している。

私はこの中では比較的若い。学識経験者としてではなく、子育て世代として意見を述べる。仮に施設を作っても皆さんはお金を払わなくてもいい。恐らく30年間の市債を発行することになるが、30年間皆さんが払い続けることはないと思う。一方、残された我々は、払い続けなければならない。

ここまで日本が発展してきたのは皆さんのお陰だと思うが、一方で閉塞感が漂っていることも事実。皆さんが親心で、施設や制度の様々な要望をされてきて、スクラップアンドビルドをせずに、どんどん積み上げてきた結果である。それが若い人が希望を持っていない一番の理由である。行政は優先順位を付けられないので、行政に要望する側が、優先順位を付けてリクエストを出すことが重要ではないか。文化振興をしないということではなく、国立博物館や府立博物館が近くにある中で、本当に亀岡市のお金で大きな施設を整備する必要があるかということを考えないといけぬ。払わなくていい皆さんと、今後ずっと払わないといけぬ私たちとの立場の違いを考えてほしい、

F 委員

今の意見に近いが、地域の文化資源は確実にアーカイブしておかないといけぬ。今は施設の話になっているが、施設ではなく場が必要。有形文化財は施設がないとだめだ

と思うが、その活用や文化行事の発表に、必ずしも施設は必要だと言い難い。私はイタリアの小さな町に4年間留学していたが、そこには陶芸の博物館が一つだけあった。映画館は閉鎖され、映画を観たい人たちは、広場に集まって建物の壁に投影して観ていた。

コンサートも町の廃墟のお城で開催していた。入場料は取っていたが、払わなくても入れ、昔の紙芝居に近かった。そういった場がたくさんあり、その場が楽しかった。コンサートの対象はロックやクラシックであるが、その鑑賞目的の人以外に野次馬がたくさん来て、マルシェも開催されていた。全ての文化行事が祭りになり、町中が楽しかった。

施設は何もなく、普段は陶芸関係の人たちしか住んでおらず、静かで住みやすかった。

亀岡も、そういう町のあり方であってもいいのではないか。

他の町と同じように、町にとって必要なものに縛られる必要はない。丹波、丹後、京都エリア全体で考えると、それぞれの役割があると思う。亀岡のいい所は、アーティストとしては、静かで邪魔されず、物価が安く、土地が安く、制作がしやすい。この数年で10名以上が亀岡に移住している。会社勤めではなく、自分の時間を自分で作れ、制御できる人には住みやすい。亀岡の人は亀岡を不便だと言うが、どこが不便なのか分からない。こんなに便利で豊かな場所は他にない。捉え方を根本的に間違っている。この町は文化的に豊かであると、提言のなかで言っていないといけない。

歴史を見ると、亀岡は円山応挙や山脇東洋などの、すごい偉人をたくさん輩出している。その当時に文化施設はなく、お寺があった。お寺は宗教施設だが、文化拠点であり教育拠点でもあった。文化はお金がなくてもできるということである。日本の文化行政はひどいと思うが、それに寄りかかっている芸術家も問題だと思う。自覚が芸術家に足りないと思う。亀岡は生活しやすく制作しやすいので、次の円山応挙は生まれてくると思う。

D委員

京都の人間が三重に行ったので、三重の良さがよく分かる。毎日の景色だけでもスイスのアルプスを見ているようだが、そのことを地元の人に伝えると、どこが珍しいのかと言われる。Uターンの人たちは帰ってくると元の集団の中に入ってしまうので、Iターンが大事と考えている人が多い。Iターンの人と地元の人で、多少の軋轢はあってもいいと思う。軋轢がないとエネルギーが出ない。今日も様々な意見が出て、アドレナリンが出ている。このような場が様々なところにあるべきだ。

京都大学や三重県の博物館は30年、40年かけて作った。毎回、その時代に合ったものを作っている。文化は素晴らしいものであるという証拠を、担保しなければならぬ。推進派の人たちは作ってくれと言っているのではなく、作りたいと言っているので、完成すれば維持管理は手伝ってもらわないといけない。私も企業を回ってお金を集めてくるが、学校には学生がたくさんいるので助けてくれる。そこで新たな出会いの場がで

き、様々なアイデアを共有できる。博物館は癒し系、出会い系であると思う。求心力として、有形文化財が必要である。推進派の人たちは完成するまで頑張るべきで、多くの意見をいただき、亀岡らしいものを作ってほしい。京都へ行けば何でもあるということになると、亀岡は寝に帰るだけになる。自然が多く、物価が安く、この自然のなかで地元の人にインスピレーションが湧いて、外から来ている人とのふれあいの中で新たな創作ができる。子どもたちにとっても、ふれあいの中で新たな発想が湧き、育っていく場ができてほしい。

J 委員

提言書の中には、立地条件や場所も明記されるのか。

事務局

立地の御意見をいただけた場合は考えるが、今のところ、具体的な御意見をいただけていないので、提言書の中に入れる予定はしていない。

A 委員

立地に関して。新資料館構想が継続して基本計画に移るように、亀岡市文化資料館協議会が市の予算で設立された。その中で議論を進めていったが、どこの場所でどれくらいの規模でということが分からないと、新資料館構想が完成した次の段階への議論が進まない経験をした。立地は早く決めて整理する方がいいと思う。

I 委員

立地について、前回の懇話会で副座長から、亀岡駅南を発展させるべきとの発言があった。その辺を明記していただきたい。

J 委員

立地の件をこの懇話会で諮られるのであれば、春日坂のテニスコートから北の辺りの立地で検討を進めていただきたい。

C 委員

当懇話会は、場所を特定する会議ではない。施設を作る事についてどう考えるかということであり、それは次の段階である。ここで縛ってしまうと身動きが取れなくなる。

議論として、どういう場所で既存施設か新しい場所を設定するかの議論はいいと思うが、場所の特定はすべきではないと思う。整備を進めるか進めないかということ、参考意見として出すべきで、場所を特定することは、この懇話会の主旨から外れていると思う。

F 委員

今の意見に賛成である。どういう場所がいいかと聞かれても困る。先ほどからいくつか意見が出ているが、文化施設に使える場所を見落としていると思う。閉校になる学校や、仏像だけ置いてある廃寺など、アーティスト側から見ると魅力的な場所がたくさんある。亀岡の祭りの資料を読んでいると、各地域で様々な祭りをされており、祭りに必要なものを保管している場所があるとすれば、そこは地域の資料館だと思う。そこに資金を投入して、日常的に公開できる場所にし、亀岡全体をフィールドミュージアム化、美術館化、博物館化することは可能だと思う。

マジックのようなことがないと、新しい文化施設は作れないと思う。あれが欲しいこれが欲しいと言いつつキリがない。今あるものをどう活用するか、視点の転換が必要である。場所を特定することは、慎んだ方がいいと思う。

D 委員

文化資料館には有形資料や文化財があり、それをどう継承するかという、ある種の瀬戸際である。京都大学の植物学教室が、世界に誇れる100万点を超える標本を所有しているが、保管場所が雨漏りするとんでもないところだった。有形の物はいずれ消えてしまうが、今ある資料館の資料を大事に未来に繋ぐ努力をしたい。今のものを未来に伝えるために必要な見積みもはできている。提言の中に付属資料で入れてもらえればいい。

町全体を博物館的にするという事は大事だと思う。問題は無人のお寺の仏像を、どうするかという話である。今は維持されているが、将来的に避難させる必要がある。安全に保管できる場所を作ることは、行政の責任だと思う。文化資料館の整備は緊急性が高いと思う。

副座長

全体的に、文化を通したまちづくりへの考え方がすごいと思った。施設については、ゲートボール場が欲しいという人もいて、いろいろ言い出したらキリがない。文化については、商工会議所も少子高齢化の中では非常に大事だと考えている。亀岡検定を実施しており、一昨年からは南丹高校の生徒も亀岡検定を受けていただき、亀岡の歴史文化を勉強していただいている。

文化施設は、ある方がいいのは間違いない。亀岡を紹介する時に「1,000席の文化ホールがあり、子どもたちがそこで遊んでいる」と言えると大変素晴らしいと思うが、町をよくしていくための優先順位がある。普段の皆さんの行動の中で、優先順位を上げる努力が必要で、すぐに文化施設はできないと思う。作ってほしいという人が、文化施設が必要だということを、この場のみでなく常々言い続けることが必要である。

座長

次第の2については、これまでの委員の皆様のお意見をふりかえるという形で、具体的な御意見をいただきました。次第の3では、文化や文化活動、施設をどう考えるかということについて、積極的に活発な御意見をいただきました。亀岡の文化や歴史が素晴らしいこと、地域の皆さん全員が誇りに思える町にしていきたいこと、未来のある子どもたちをこの町で育てていきたいという気持ちは、委員の皆様の共通認識だったと思う。

施設については、基幹的な施設があった方がいいという御意見と、文化活動と施設のあり方は分けて考え、町全体が美術館や博物館になるように分散的に施設を整備する方がいいのではないかという御意見もあり、両論あると思う。

過大なものというのがどれくらいの規模なのかについては様々な御意見があると思うが、過大なものは不要であり、維持管理費のことを考慮して適正な規模とし、将来の子どもたちに必要以上に負担をかけないことは共通認識だと思う。

また、施設とは別に、文化の活動をしていく場が必要で、市民の皆さんが文化活動を作り出し、それを楽しむことが必要だということも、共通認識だと思う。提言書は一つの結論ではなく、様々な幅広い意見を盛り込むようにする。

4 その他

第4回懇話会の開催予定日時等について事務連絡（事務局／關本）

5 閉会

以上